

生活経済学会関西部会 2017年度研究大会プログラム

研究大会

日 時： 2017年12月2日（土）14:30～17:10

会 場： 大阪市立大学梅田サテライト大阪駅前第2ビル6階）小セミナー室

・開会挨拶：関西部会部会長 所道彦氏（大阪市立大学） 14:30～14:35

第1報告者：佐々木昇一氏（神戸大学大学院研究員） 14:35～15:20

論 題：男性の家事育児時間の規定要因等に関する実証分析

第2報告者：西村 智氏（関西学院大学） 15:20～16:05

論 題：非管理職女性の昇進意欲の決定要因

休 憩（15分）

第3報告者：田島正士氏（京都外国語大学） 16:20～17:05

論 題：「風評被害」と評判効果の対称・非対称の関係について—福島第一原発事故を中心として—

・閉会挨拶：生活経済学会副会長 宮村健一郎氏（東洋大学）氏 17:05～17:10

（報告30分、質疑応答15分を予定しております）

懇親会

日 時： 2017年12月2日（土）17:30～19:30

会 費： 2000～2500円

場 所： 研究大会会場近隣のお店を予定しております。

生活経済学会関西部会事務局

〒573-0192 大阪府守口市藤田町6-21-57

大阪国際大学グローバルビジネス学部

外島研究室気付 生活経済学会事務局（外島健嗣）

TEL： 06-6902-0791（代） FAX： 06-6902-8894（代）

E-mail： sotojima@oiu.jp

各報告のテーマと概要

第 1 報告

報告者：佐々木昇一氏（神戸大学大学院研究員）

論 題：男性の家事育児時間の規定要因等に関する実証分析

報告の概要：男女共同参画社会の実現や働き方改革の必要性が要請されている一方で、実態としては、わが国の男性（夫）の家庭生活における家事育児参加は他の OECD 諸国と比較すると相当低調なまま推移している。そこで、改めて、わが国の男性（夫）の家事育児時間の規定要因について代表的な仮説を実証的に検証する。検証するうえでは、個人間の観察されない属性の違いをコントロールするためパネルデータを用いた固定効果モデルによる分析を行う。また、男性の家事育児参画時間が女性（妻）の夫婦満足度に与える影響についても検証する。加えて、男性（夫）が OECD 諸国並みに家事育児時間を確保するような行動が、わが国の長時間労働慣行のなかで労働所得に負の影響を与えていないか（“家事&育メンペナルティ”がないか）を検証する。

第 2 報告

報告者：西村 智氏（関西学院大学）

論 題：非管理職女性の昇進意欲の決定要因

概 要：事前割付によるオンライン調査を行い、その結果を用いて、非管理職女性の昇進意欲について分析した。分析の結果、グループリーダーの経験の有無が意欲創出や意欲喪失に影響すること等がわかった。

第 3 報告

報告者：田島正士氏（京都外国語大学）

論 題：「風評被害」と評判効果の対称・非対称の関係について—福島第一原発事故を中心として—

報告の概要：福島第一原発事故以降、筆者は5年以上にわたり加工食品の「風評被害」を実地調査してきた。その結果によると、現在も「風評被害」は終熄していない。本報告ではまず、「根拠がない」とも言われる「風評」は短期に終熄するが、それとの条件の違いを比較する。また、経済的なプラスの効果である評判効果とも、短期・長期の観点で比較検討する。特に経済的に大きな問題である長期の「風評被害」を防ぐいかなる手立てがあるかという点は、経済や生活者の問題として非常に重要である。また、「風評」や評判を理解することは、合理性と心理的影響の関係や、科学と効用の関係を理解する上で重要な観点であると考えられる。それらの一端を明らかにすることが本報告の主な目的である。